

秋冬作型における白ネギの萎凋病・白絹病の防除体系

農業研究部

1. 研究の背景

県内の白ネギ産地では萎凋病と白絹病の発生が問題となっています。そこで、白ネギ栽培における萎凋病および白絹病の薬剤防除体系を確立しました。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

萎凋病

- ① 苗床で苗の生育不良が連年見られる場合は萎凋病の疑いがあるため、苗床の土壤消毒を行います。
- ② 本ぼ定植直前にトップジンM水和剤苗根部浸漬処理(20倍、3分間)、又は苗床灌注処理(250倍、1L/1冊)を行います(表1)。

白絹病

- ① 白絹病に対して6月下旬にモンカット粒剤を、7月下旬にモンガリット粒剤を、8月下旬にリゾレックス水和剤をそれぞれ株元散布します(表1)。
- ② 薬剤耐性菌対策のためにフルトラニル系薬剤(モンカット粒剤、モンカットフロアブル40)の使用は年1回とします。また、モンカット粒剤の防除効果が低い場合はユニフォーム粒剤を使用します(表1)。

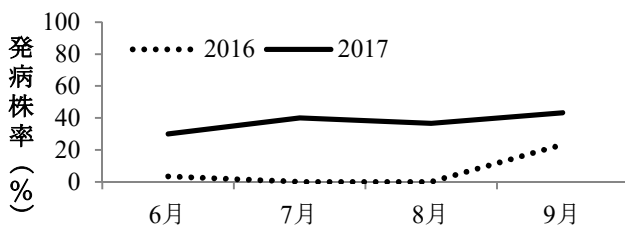


図1 萎凋病発病株率(宇佐市)

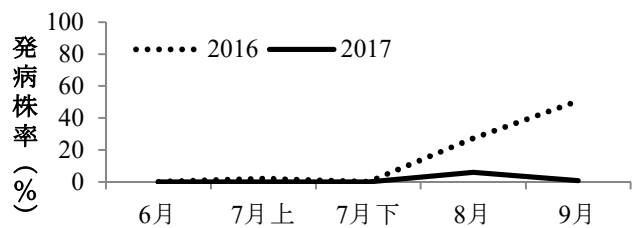


図2 白絹病発病株率(宇佐市)

表1 秋冬作型における萎凋病・白絹病防除体系

処理時期			薬剤名	使用方法	対象病害虫	
					萎凋病	白絹病
定植前			土壤消毒		—	—
5月	上～下	定植直前	トップジンM水和剤	苗床灌注250倍、1L/1冊※ または 苗根部浸漬処理 20倍、3分間	□	—
6月	下	生育期	モンカット粒剤 または ユニフォーム粒剤	株元散布、4～6kg/10a 株元土壤混和、9kg/10a	—	○
7月	下		モンガリット粒剤	株元散布、4～6kg/10a	—	○
8月	下		リゾレックス水和剤	株元散布、1,000倍、300L/10a	—	○

○：登録有り □：小菌核腐敗病と同時防除を行う

※：チェーンポット1冊(30×60cm、土壌量約5L)あたり1L

農業登録内容は平成30年4月現在、使用の際は最新の登録内容を確認してください。

3. 期待される効果

白ネギの萎凋病、白絹病の防除対策指導に資することができる。

4. 担当機関連絡先

農業研究部 病害虫対策チーム

TEL：0974-28-2078

住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8